

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 0 回相模原市歯科保健事業推進審議会		
事務局 (担当課)	健康増進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 2 2 (直通)		
開催日時	令和 3 年 7 月 8 日 (木) 1 0 時 ~ 1 1 時 2 0 分		
開催場所	ウェルネスさがみはら A 館 3 階 一般健診室		
出席者	委 員	1 5 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	9 人 (保健衛生部長、保健衛生部参事、健康増進課長、外 6 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>(1) 健康づくりに関する条例の制定及び次期計画等の策定について</p> <p>(2) 「相模原市歯科保健実態調査」について</p> <p>(3) その他</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会（健康増進課長による進行）

・保健所長あいさつ

（以下、寺崎会長による進行）

委員交代により、欠員となった副会長については、委員の互選により、原口あゆみ委員に決定した。

寺崎会長より、委員の過半数の出席の確認と本委員会の成立が宣言された後、議題が進行された。

2 議題

（1）健康づくりに関する条例及び次期計画等の策定について

健康づくりに関する条例及び次期計画等の策定について（資料2）、事務局より説明を行った。

（寺崎会長）計画だけでは、市民の方々に歯と口腔の健康の重要性を伝えることが難しい。特にコロナ禍で、口の健康を守ることは全身の重症化予防の観点からも重要であるため、市歯科医師会として、条例制定について以前より提案させていただいており、本件のような条例制定が重要であると考えている。

（福田委員）学校の中だけでは子どもたちも歯と口の健康に関して意識ができないので、ご家庭の中で歯と口の健康について意識していくことが必要である。

（石倉委員）学校での定期健診により、生徒の口腔内の状況を把握する機会はあるが、継続して健康を維持するためには、ご家庭の協力が重要である。学校での歯みがきの講習会など、組織的な活動についても必要だと考える。

（原口副会長）学校健診でむし歯があると受診が治療だけになりやすい。治療後も歯科医院で継続的に経過を見ていく必要があると感じている。

（内田委員）条例ができる事によって、どのような効力があるのか、絵にかいた餅のようにならないかを危惧する。条例をどう生かしていくのかが今後、問題になってくるのではないか。現在のコロナ禍で保育園でも歯みがきができないなど生活様式が大きく変化しているので、早急に何か手立てが必要であると保育の現場でも感じている。

（柴田委員）自身の歯科定期受診の間隔もこのコロナ禍で3回から2回にするなどしており、「ステイホーム」の影響で皆、歯科医院への受診控えの傾向があるのではないか。

（佐々木委員）小学生の子どもをもつ親だが、子どもに口臭を防ぐために歯みがきの必要性を指摘しても、「マスクをするから大丈夫」などというやり取りがあり、新

しい生活様式の弊害を感じている。歯科健診についても、高齢の方は外出しにくい状況であるため、今後、受診の必要性については周知の方法を検討していただければと思う。

(井出委員) 医師会としても市民の診療抑制の傾向が強いと感じており、具体的に対策を講じないと条例を制定しても現実的な計画の推進が望めないのではないかと。歯科については、この1年半の受診抑制ほどの程度か。

(寺崎会長) 歯科についても受診抑制の程度が大きい。そのため、神奈川県歯科医師会でも受診抑制により歯周病が重症化するリスクがあるなど、メディアでも啓発を行っているところ。最近はやや改善の傾向があると感じている。

(尾崎委員) 歯科の受診抑制については、レセプトデータからすでにその傾向が明らかになっている。傾向として、メンテナンスで定期的に健康管理のため受診をしている方が減り、痛みで受診している方が増えるなど、歯周病の重症化と処方数の増加が明らかであった。他、所得層の高い方の受診が減っている傾向がある。

(大嶺委員) 市歯科医師会としては、各ライフステージにおける歯科医療機関への定期的な受診の促進や各種啓発事業の実施について計画しているため、市の援助をお願いしたい。また、リスクの高い妊婦に対する歯科健診、オーラルフレイル問題に対する健診や様々な啓発事業などやっていきたいと考えているので、合わせて協力をお願いしたい。

(事務局) 条例については、計画に具体的な施策を定めていくにあたっての指針となるよう、今後も引き続き皆様の御意見をいただきながら取組を進めていく。

(2) 「市民歯科保健実態調査」について

市民歯科保健実態調査の概要及びアンケート案(資料1、当日資料1～4)について、事務局より説明を行った。

(内田委員) アンケート案について、子どもがいる職員等にも実施してもらったところ、歯科医に歯並びに問題があると指摘されたが、歯科矯正については金額面で受診を躊躇しているという回答が複数あったので、歯並びについて問題がある方が多いと感じた。また、一般市民向けアンケート案の設問23「オーラルフレイルをしていますか」については、「オーラルフレイル」の意味を注釈で入れた方がよいのではないかと。アンケートの回答率について、前回調査で36%というのは低いため、今回の調査で何か工夫をした方がよいのではないかと。

(事務局) オーラルフレイルについては、オーラルフレイルという言葉自体の認知度を測りたいと考えており、用語の説明をしてしまうとうまく計測できない可能性があるため、ご理解いただきたい。仮に、調査結果において、認知度が低い場合には、啓発をさらに進める必要があると考えている。

回収率については、前回同様に、アンケートを送付した一定期間後に礼状兼回答依

頼状を送付することを予定しており、回収率を上げられるよう努めたい。

(尾崎委員) 矯正治療費の意見について、診療報酬(保険)で算定できない部分については、国の審議会でも事後フォローの必要性等の問題があり見送られた経緯がある。アンケートの回収率については、他の郵送調査では、10%程度となっている場合もあり、40%近くあれば良好である。また、今回のアンケート案の設問数を前回より減らし、簡便化した点については、回答のしやすさを考えても評価できる。

(堤委員) アンケート案の改善については、理解できる。また、回収率に関係することであるが、1歳6か月児健診や3歳6か月児健診の保護者の方に対する調査に関しては、回答者が健診を受診された比較的関心の高い方の可能性があるということ念頭においた上で分析ができるとよい。

(梶山委員) アンケート案の簡略化した部分については、答えやすくなっている。

(長友委員) 改善されたアンケート案のとおりでよい。

(幸山委員) 回収率を上げることにに関して、職域の部分で何かできることがあれば協力をさせていただく。

(事務局) いただいた御意見を踏まえて、市民歯科保健実態調査を実施させていただく。また、調査対象となる各種関係団体の方々においては引き続き調査の実施についての御協力をお願いしたい。

(3) その他

(大嶺委員) 健康づくりに関する条例と次期計画の策定について、具体的にはどのように進めるのか。

(事務局) 条例の制定と並行して、次期計画は保健医療計画、歯と口腔の健康づくり推進計画、食育推進計画の3つの計画を包含した一つの健康づくり計画に統合して策定していくことを予定している。そのため、現計画に基づく3つの審議会を一本化することについても検討する必要があると考える。一本化する場合、次期計画については、新しい審議体の中で策定していくことになるが、専門部会を設けるのか等、今後も皆様の御意見を伺いながら進めていく。

以 上

歯科保健事業推進審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	寺 崎 浩 也	(公社) 相模原市歯科医師会	会 長	出席
2	大 嶺 秀 樹	(公社) 相模原市歯科医師会		出席
3	井 出 道 也	(一社) 相模原市医師会		出席
4	岡 本 裕 子	相模原市栄養士会		出席
5	原 口 あ ゆ み	神奈川県歯科衛生士会 相模原支部	副会長	出席
6	梶 山 和 美	神奈川県看護協会 相模原支部		出席
7	尾 崎 哲 則	日本大学歯学部		出席
8	堤 明 純	北里大学医学部		出席
9	石 倉 隆 之	県立学校長会議地区別会議 相模原地区		出席
10	福 田 雅 一	相模原市立小中学校長会		出席
11	長 友 正 博	(一社) 相模原市幼稚園・ 認定こども園協会		出席
12	内 田 紀 子	相模原市私立保育園・ 認定こども園園長会		出席
13	幸 山 隆	相模原地域連合		出席
14	中 島 博 幸	相模原市障害福祉事業所協会		欠席
15	坂 本 陽 二 郎	(一社) 相模原市高齢者福祉施設協議会		欠席
16	柴 田 眞 砂 子	公募委員		出席
17	佐々木 葉子	公募委員		出席